



平成 30 年 3 月 22 日(木)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 佐々木 秀之

# 開四小だより

## 3月号

万 里 一 空

校 長 佐 々 木 秀 之

気が付けば周りは暖かな春の日差しと穏やかな風に包まれ、桜の花のつぼみは花咲く日を今や遅しと待ちわびています。来週には満開の桜が見られることと思います。

さて本日、修了式を終え、明日は本校 63 回目の卒業式を迎えます。春は別れと出会いの季節といいますが、喜びと少しの寂しさを覚えるのが卒業式です。

\*

本年度最後の学校だよりの題、「万里一空」とは、私の好きな言葉の一つで、かの剣豪・宮本武蔵の言葉として伝えられています。

諸国を遍歴して巖流・佐々木小次郎を倒した武蔵が、生涯を終えたと伝えられる肥後熊本藩で、藩主・細川忠利から、「兵法の極意は何か？」と問われたときに、「兵法の事、総じて万里一空、言葉にては伝え難し」と答えたものが出典とされています。

その意味は、「山水三千世界を万理（里）一空に入れ、満天地とも攬（まとめ）る」と動揺せずに冷静であることが望ましいという心のもちようで、「目的、目標、やるべきことを見失わずに励む、頑張り続ける」ことであると解釈されています。

超一流のスポーツ選手が最高に集中している時、相手の動きがスローで見えたり、ボールが止まって見えたりすることがあるそうです。いわゆる「ゾーン」に入るという境地です。解釈は様々ですが、武蔵は修練を重ね、この「ゾーン」を自在に操ることができるまでになっていたのではないかという説もあります。

しかし、万里一空にはもう一つ別の意味があります。それは、「親しい友人や仲間と別れ何万キロ離れても、見上げる空は変わらない。いつでも心は共にある」という惜別の情です。

この開四の地を巣立つ卒業生は、見えない一本の糸で必ず繋がっています。これから歩む道は、楽しいことばかりではありません。時には苦しいときや挫けそうになることがあると思います。しかし、人は決して一人ではありません。見守ってくれる家族や、支えてくれる友達、そして学校があります。辛い時は、いつでも糸を辿って母校に顔を見せてほしいと思います。羽ばたく開進第四小学校第 63 回卒業生に幸多かれと祈ります。

\*

今年度最後の学校だよりとなりました。一年間本当にありがとうございました。本校の教育活動に深いご理解いただき、惜しみないご支援・ご協力をいただきましたことに厚く御礼申し上げます。